

第55回 全国七大学総合体育大会

バレーボール競技

競技要項

主催：北海道大学体育会 東北大学学友会体育部 東京大学運動会 名古屋大学体育会
大阪大学体育会 京都大学体育会 九州大学体育会総務委員会
主管：東京大学運動会バレーボール部
特別協賛：一般社団法人 学士会

1. 日程

平成28年8月15日（月）～19日（金）

開会式 8月15日 9時半

閉会式 8月19日 最終試合終了後

2. 会場

日野市市民の森ふれあいホール（8月15日、16日）

エスフォルタアリーナ八王子（8月17日～19日）

3. 参加者・参加資格

入学から4年（48か月）未満の者

※非七大学学生は、本戦への出場不可。全参加大学が認めた場合、新人戦への参加を許可する。

4. 大会形式（本戦・本戦以外の構成）

15日：新人戦。本戦の順位に関係なし。

16日以降：本戦

5. 競技規則・試合の進行方法

・本大会は2016年度公益財団法人日本バレーボール協会6人制競技規則による。
ただし、今大会の目的（大学間の交流並びに技術の向上）を達成するために、一部特別なルールを適用する。

・試合は3セットマッチとし、新人戦の第1試合～第4試合のみ1セットマッチとする。すべての試合をワン・ボール・システムで運営する。また、試合は男女同時刻開始とし、男女で遅く終わった試合の15分後に次の試合のプロトコールとする。ただし、進行状況によっては追い込み式とする場合がある。

・新人戦はトーナメント方式、本戦は男女別の総当たり方式とする。

・新人戦は3位決定戦を行い、1位から3位までを決定する。

・本戦は勝った試合数が多い順に順位を決定する。ただし、勝ち数が並んだチームがある場合、セット率（総得セット÷総失セット）を算出し、高い方が上位とする。また、セット率が並んだ場合、得点率（総得点÷総失点）を算出し、高い方を上位とする。得点率も同じ場合は以下のように順位を決定する。

・2チームのときは、当該校同士の試合の勝ちチームが上位。

・3チーム以上のとき、当該校同士の試合で得点率を算出し、高いチームが上位。

・公式練習中及びゲーム中は、当該チームの関係者であれば誰でも、フロアに入り参加・応援することができる。ただし、ベンチに座れるのは有効に登録されたチームの役員（部長、監督、コーチ、トレーナー、マネージャー）とし、各人既定のマークを付けること。また、ゲーム中の応援は各チームのウォームアップエリア周辺とし、ラリー中は近づかないこと。ボール・デッド間はコートに入ってもよいが、ラリー開始時のサービスを妨げないように、速やかに元の場所に戻ることに。

・上記に関して、前ラリー終了の吹笛から次のラリーのサービス許可までの時間は通常8秒であるが、ボール・デッド間の応援を優先し、8～10秒とする。応援がラリー開始を妨げないときはこの限りではない。

・チームの構成メンバーは無制限だが、登録された番号の入ったユニフォームを着用すること。ただし、パフォーマー（場を盛り上げるために出場するもの。例えば、コミカルなコスチュームを着ているものや、男子部における女子マネージャーなど）と判断される場合はこの限りではない。パフォーマーは個人記録集計の対象外となる。また、この選手交代もルール上定められたチームの競技交代の回数に含まれる。

・競技中の中断の手続きやその回数はルールに従う。よって、タイム・アウトは1セットにつき2回要求でき、1回につき30秒である。選手交代は1セットにつき6回要求でき、不法な交代は認められない。また、競技中断中にはコートに入っただけの応援を認める。この場合なるべく30秒でコートからでなければならぬが、極端に競技の再開を遅らせると判断されない限り、厳しくは処置されない。

・プレーヤー・リベロは試合ごとに登録できる。

・男女各コート間の空間では試合を妨げない程度のアップは許可される。（ボールの使用可）サブアリーナの使用は禁止。

・コートが濡れた場合

- (1) チームでフロア・モップを準備し、ボール・デッド間に速やかにふき取ることに。
- (2) モップの使用はタイム・アウト及びセット間、もしくは審判が指示したときのみ可能とする。
- (3) コート外まで広く濡れた場合は、審判が判断し、その指示によって対応する。

・不法な行為については、一般の協議会では罰せられる内容でも、本大会の目的に照らし、また大会の雰囲気、品位を著しく損なわない限り極力罰しない。例えば、応援とみなされるもの（コミカルな衣装、ゲームの邪魔にならない程度の鳴り物、コートに入っ

でのパフォーマンス、相手チームへのアクションなどは認める。ただし、以下の場合は厳しく罰する。

- (1) 審判の判定に対するアピール行為
- (2) 大会の雰囲気や品位を損なうような行為（侮辱的な行為、暴力行為を含む）
- (3) 一度注意されたことを再度繰り返す場合

・遅延行為については、それが応援である限り極力罰しない。応援はあらゆる場面で、また競技場のいたるところで行われるが、競技が極端に遅れると判断される場合を除き、その一連の行為(パフォーマンス及びアクション)が終了するまでサービスの吹笛を待つ。ただし、以下の行為は遅延行為として罰する。

- (1) 競技交代が遅れたとき
- (2) 不法な競技者交代を要求したとき
- (3) 不法な要求を繰り返したとき
- (4) 応援以外の行為で競技を遅らせたとき
- (5) 一度注意されたことを再度繰り返したとき

・その他必要に応じて、大会役員で協議し決定した事項については、チーム及び審判、そのほかの役員はその決定に従うこと。